

# 通常総会・青年部総会開く 益田理事長6期目の体制始動

## ＝山口県鉄構工業組合＝



山口県鉄構工業組合（山口市小郡高砂町3-1）は19日、山口グランドホテル（山口市小郡黄金町1-1）で第52回通常総会を開き、任期満了に伴う役員改選で益田理事長（マスタ鉄工）の続投（6期目）を決めた。また、副理事長は宮本直治氏（宮本鐵工所）が留任し、新たに長井宏文氏（長井工業）を選出した。



総会のもよう

新年度の事業計画では、採算に見合う適正な受注単価の確保と取引条件の改善などを重点方針に掲げた。

総会は、出席28人、委任状8人の全会員が参加。議事に先立ち、14日に逝去した前副理事長の岡田直矢氏（徳機製作所）に対し全員で黙祷を捧げ、その多大な功績を偲んだ。岡田氏は1981年から徳山・新南陽支部長を務め、2002年に同支部が光・下松支部と統合して周南支部となった後も引き続き支部長として貢献。さらに1997年から29年間にわたり副理事長を務め、組合事業の運営・推進に尽力

した。冒頭の挨拶で益田理事長は、岡田氏との突然の別れを惜しむとともに、業界を取り巻く厳しい環境にも言及。「今年3月からの中東情勢緊迫化に伴い原油価格が大きく変動し、塗料やシンナーなどの石油化学製品の価格高騰、供給不足が現場の大きな負担となっている。慢性的な人材不足や技能継承、働き方改革への対応に加え、DXや省力化投資など課題は山積している。このような状況だからこそ情報共有や充実した研修、安全対策の強化を図り、行政や関係団体との連携を深めることで組合員の底上げに

努め、地域の建築インフラを支える使命を果たしていく」と力強く決意を述べた。

議事では宮本副理事長を議長に選出し、2025年度事業報告・収支決算、26年度事業計画案・収支予算案などの各議案を審議し、すべて原案通り可決・承認した。

25年度の事業報告によると、組織運営では三役会や理事会を開催。技術・教育事業として、年2回「性能評価認定に伴う工場実態調査の事前説明会」を開き、全国鉄骨評価機構（全鉄評）への評価申請の適正化を図った。これにより、県内の同機構申請8工場はすべて合格を達成。内訳は、Hグレードが1工場、Mグレードが5工場、Rグレードが2工場となった。

年部の活動支援、品質管理体制の維持強化、性能評価認定に伴う工場実態調査の事前説明会の実施、官公庁や関係団体との連絡協調を上げた。

任期満了に伴う役員改選では、益田理事長の続投を決めたほか、岡田氏の後任として副理事長を務めていた宮本氏を留任、加えて新副理事長に長井氏を選出した。長井氏を含む新任理事5人と新任監事1人を加えた新たな役員陣が決定した。また、通常総会に先立って開催された第32回青年部会通常総会の承認報告が行われ、益田裕樹青年部会長が、親会と連携しつつ、各種講習会・研修会の開催、全構協との意見交換会、青年部会や中国ブロック研修会への参加などの事業計画を報告した。

26年度の事業計画では、全国の鉄骨需要量が3年連続で400万tを割り込む非常に厳しい経営環境が続く中、組合員の経営基盤の安定と発展に向け、採算に見合う適正な受注単価の確保と取引条件の改善を最優先の基本方針に据えた。具体的な重点目標として、資格取得・維持の推進、青

会員数は、新たに徳機製作所の羽嶋桂一郎氏が入会し、16人となった。役員改選では、益田裕樹青年部会長（マスタ鉄工）の続投を承認し、新幹事に羽嶋氏を迎え、新監査には森山廉優氏（同）が就いた。また、相談役には親会副理事長である宮本直治氏が新たに就任した。

【山口県鉄構工業組合 新役員】  
▽理事長＝益田和男  
▽副理事長＝宮本直治  
▽監事＝西岡英司（西岡鉄工、周南支部）、中村智広（中村鉄工、萩・長門支部）

（敬称略）

▽青年部会新役員】  
▽会長＝益田裕樹（マスタ鉄工）  
▽副会長＝中元大（中元機工）  
▽幹事＝羽嶋桂一郎（徳機製作所）  
▽監査＝森山廉優（マスタ鉄工）  
▽相談役＝宮本直治（宮本鐵工所）

▽理事＝川口和憲（川口鉄工所、岩国・柳井支部）、藤村吉孝（藤村鉄工、岩国・柳井支部）、村上文生（山陽製作所、周南支部）、伊ヶ崎正行（伊ヶ崎工業、周南支部）、秋田晋士彦（山陽鋼機建設、防府・山口支部）、久保正徳（関門三協工業、下関支部）、西本佳展（西本鉄工建設、萩・長門支部）、益田裕樹（マスタ鉄工、防府・山口支部）  
▽監事＝西岡英司（西岡鉄工、周南支部）、中村智広（中村鉄工、萩・長門支部）